

# Team SEIKEI 2022 大阪成蹊大学

## ピンクの旋風「第2期」に突入 金丸体制で関西から世界へ



▲新入生が加わり、第2期のスタートを切ったTeam SEIKEI。右から金丸祐三監督、石田悠月、山根千歩、宮崎佳乃、黒田結生、菅原真桜、福田七海、高橋茉柚、2年生主将のアシしおり、金丸速香コーチ

関西から世界へと「ピンクの旋風」を吹かせ続けたTeam SEIKEIが、11年目に入ったこの春、新たな幕開けを迎えた。

昨年度は、4年生の齋藤愛美（現・大阪成蹊AC）が東京五輪4×100mリレーに出場（3走）、OGの青山聖佳（大阪成蹊AC）も五輪にあと一步と迫るなど、2012年春の創部を含め、イチからチームを作り上げた瀧谷賢司監督の集大成が結実した1年となった。

その瀧谷監督が3月末で退任し、昨年からコーチとして指導に携わってきた金丸祐三氏が監督に昇格。同じく昨年からコーチを務める妻・速香さんとともに、新たなスタートを切った。

メンバーは2年生のアシしおりと、新入生7人の計8人。アシしは北海道栄高2年

時にインターハイ400mで6位に入賞した実績があり、新入生も中学時代にジュニアオリンピックA200m優勝の実績を持つ石田悠月（静岡・浜松湖東卒）らスプリントが専門の選手たちだ。

金丸監督は現役時代、男子400mで五輪に3大会連続（08年北京、12年ロンドン、16年リオ）、世界選手権も05年から7大会連続で出場。日本選手権は05年から前人未到の11連覇を達成した日本を代表するロングスプリンター。速香さんも100m11秒92、200m24秒41の自己ベストを持ち、高校、大学、実業団と全国入賞を何度も重ねてきた。瀧谷前監督からは「自分の色を出していけばいい」という言葉とともに部を受け継いだ金丸新監督は、夫妻の専門種目を軸と

したチーム作りを進めていく。

「瀧谷先生から学べたことは、私にとって大きなプラスになりました、本当に感謝しています。私が現役時代に目指してきたのは『陸上の探求』。これからも選手たちと一緒に探求し続けていきたい」

\*

昨年4月に大阪成蹊学園職員になった金丸夫妻の新体制への移行は、秋から進められてきた。9月頃までは祐三コーチは選手勧誘のため、さまざまな大会を視察したり、学校へあいさつ回りをしたりと全国各地に足を運び、速香コーチは陸上部運営の引き継ぎを受ける毎日。9月の日本インカレ後、4年生たちが引退をして前体制の区切りを迎えた10月、「金丸体制」が始動した。いわば、



▲選手たちとともに陸上を探求していくという金丸監督

アシしおり（2年）	400m54.85
高橋 茉柚（1年/大阪・大阪成蹊女高卒）	100m12.15
山根 千歩（1年/広島・宮島工高卒）	100m12.21
石田 悠月（1年/静岡・浜松湖東高卒）	100m11.97
菅原 真桜（1年/宮城・仙台育英高卒）	100m12.18
黒田 結生（1年/京都・西城陽高卒）	200m25.03
宮崎 佳乃（1年/岐阜・岐阜済美高卒）	200m25.13
福田 七海（1年/大阪・大塚高卒）	200m24.82

▲ただ1人の2年生としてチームをまとめるアシし



▲中学時代にジュニア五輪A200m優勝の実績がある石田を中心にスプリント種目での活躍を期す

Team SEIKEI第2期の幕開けである。

3年生、2年生の部員はゼロのため、1年生のアシしと、系列の大阪成蹊女子高からの入学が決まっていた高橋茉柚とともに「探求」していくことで、この春からの本格移行はスムーズに進んだという。

「より指導へのイメージを描く期間になりましたし、2022年への基盤がしっかりとできあがったと思います」と金丸監督。選手一人ひとりに対し、動きをしっかりと見て、対話を重ね、「どんなイメージの終着点を持っているのか」を確認していく指導を目指していくという。そしてその先へ、抱く思いがある。それは、チームが掲げてきた「関西から世界へ」という伝統そのものだ。

「将来的には競技レベルだけでなく、競技に対する取り組みや探求心を、今の日本の男子のレベルに引き上げたい。女子は世界から遠い種目が多いですが、自律して、自発的に動ける選手が増えてくれば男子のように世界と戦うことができるはず」

そんな監督を、速香コーチは「どうしたら選手も監督もやりやすくなるのか、それを常に考えながら選手と監督とのパイプ役になっていきたいと思っています」とサポートしてい

くつもり。金丸監督にとっても、「女性の動きの感覚は持っていないので、それを聞いて、トレーニングにフィードバックしていきたい」と頼りになる存在だ。

\*

北は宮城、西は広島から新入生が来阪し、3月28日に全員が集合。SNSの使い方など学生生活や競技生活のことを伝えるミーティングを第一歩に、4月1日の入学式で晴れて大阪成蹊大の一員となった。

金丸体制の初戦は4月4日～5日の大阪インカレ。その後は日本学生個人選手権（4月15日～17日/神奈川・平塚）を経て、5月の関西インカレ（25日～28日/京都・西京極）へと向かう。初年度の目標は「全員自己ベスト」だ。

「1年目に限らず、『全員自己ベスト』をずっと続けていくことが大きな目標です。リレーでは瀧谷前監督が10年のご指導の中で出された4×100mリレー 45秒00（学生歴代8位）、4×400mリレー 3分37秒80（同6位）を超えたい。そのために、私がやることは現役時代と変わりません。選手と一緒に陸上を追求すること。それに尽きます。陸上をおもしろくして、スポーツの価値を高めたい



▲3月に大阪成蹊大を卒業し、4月から大阪成蹊学園職員として働きながら大阪成蹊AC所属で競技を続ける齋藤愛美。昨年の東京五輪には4×100mRの3走として出場。今夏のオレゴン世界選手権での代表入りをはじめ、世界と戦うスプリンターを目指し、引き続き瀧谷賢司監督（前大阪成蹊大監督）に師事してトレーニングに励む

という思いもあります。日本の陸上界にとっておもしろい存在になれるようにがんばります」

始まりは、再び関西から。だが、第1期よりも強く、たくましい風を吹かせていく。

# OSAKA SEIKEI SPORTS & Culture Center

Track & field / Futsal / Badminton / Tennis / Soft Tennis / Baton Twirling / Table Tennis / Cheer dance

**オープンキャンパス**  
4/24(日)・5/8(日)

上記以降の日程は、ホームページにてご確認ください。  
<https://univ.osaka-seikei.jp> <https://tandai.osaka-seikei.jp>

**大阪成蹊学園スポーツ&カルチャーセンター**（大阪成蹊大学 大阪成蹊短期大学 大阪成蹊女子高等学校）  
〒533-0007 大阪市東淀川区相川3丁目10-62 tel 06-6829-2699 fax 06-6829-2629 E-mail [spocul@osaka-seikei.ac.jp](mailto:spocul@osaka-seikei.ac.jp)

大阪成蹊学園 大阪成蹊大学 びわこ成蹊スポーツ大学 大阪成蹊短期大学 大阪成蹊女子高等学校 大阪成蹊短期大学附属みどり幼稚園

大阪成蹊学園

照準は、  
世界へ。